AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会／（公財）日本自然保護協会／林野庁関東森林管理局

赤谷の森だより

2024.4.1
vol.55

赤谷プロジェクト20周年記念報告会

赤谷森林ふれあい推進センター　神田　駿
関東森林管理局 計画保全部 部長　諏訪　実
みなかみ町企画課 課長　地域協議会 理事　小池　俊弘
（公財）日本自然保護協会 生物多様性保全部 部長　出島　誠一
地域協議会　北山郁人／片野直子／本多　結

（センサーカメラで撮影されたツキノワグマの親子　撮影：赤谷プロジェクト）

AKAYA no MORI ミニ写真館

今回のテーマ

「赤谷の森に生息する動物たちの痕跡」（写真：赤谷森林ふれあい推進センター）

ノウサギの足跡

キツネの足跡

ニホンジカの糞痕

ニホンジカの角研ぎ跡

ツキノワグマの爪痕

赤谷プロジェクト20周年記念報告会

赤谷森林ふれあい推進センター
神田　駿

令和6年2月3日(土)にみなかみ町カルチャーセンターで、「赤谷プロジェクト20周年記念報告会」を開催しました。

第1部ではみなかみ町主催の「みなかみ町環境学習発表会」が開催されました。赤谷センターでは、ヒノキの球果ストラップ作り(図1)と森のかけらストラップ作り(図2)の2つの体験ブースを設置しました。当日はとてもたくさんの方にご参加いただき大盛況でした!

第2部として「赤谷プロジェクト20周年記念報告会」を実施しました。赤谷プロジェクトは平成15年に活動を開始してから「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」という2つの目標を掲げ、これまでに植生管理や猛禽類調査、環境教育など幅広く取組を行ってきました。今回の報告会では、これまでの取組で得られた成果をまとめ、今後10年間の赤谷プロジェクトの展望を報告する場として多くの方にご登壇いただきました。

▲図1:ヒノキの球果ストラップ作り

▲図2:森のかけらストラップ作り

赤谷プロジェクト 20年の成果と次の10年の展望

関東森林管理局 計画保全部 部長
諏訪　実

赤谷プロジェクトは植生や哺乳類、イヌワシなど様々な取組を行ってきました。

赤谷の森では人工林を自然林に戻していくことが課題となっており、複数の植生試験地で伐採後の成長や侵入個体などの調査を継続しています。また、赤谷の森にはイヌワシが生息しています。イヌワシは狩りを行う場所として開放地を好むことが分かっており、赤谷プロジェクトでは狩場創出の試験地を設け、イヌワシの行動のモニタリング調査を行いました。その結果、イヌワシが獲物をとる行動が多く見られるようになりました。

国有林の立木販売は、現在大規模なものがほとんどとなっています。その一方で、みなかみ町には小規模な林業者が多く存在します。今後は小規模な林業を行っていけるような販売の工夫をしていきたいと考えています。

同時に、赤谷の森を見てもらう工夫も必要だと感じています。森林の変化は分かりにくく、また、イヌワシを観察することは容易ではありません。そのため、一般の方々が赤谷の森を訪れても魅力が伝わりにくいのではないかと考えています。今後、みなかみ町の多くのガイドの方々と連携を図りつつ、幅広い方々に赤谷の森を色々な形で利用してもらうことが今後10年間の大きな課題であると考えています。

赤谷プロジェクトからみなかみBRへの展開

地域協議会 理事
みなかみ町企画課 課長
小池　俊弘

赤谷プロジェクトとの連携前からみなかみ町が行ってきた「自然をいかしたまちづくり」についてご紹介します。

平成17年10月にみなかみ町が誕生しましたが、その前年に「谷川連峰・水と森林防人宣言」を行いました。その後、平成20年9月には「みなかみ・水・『環境力』宣言」を発表し、平成21年4月には「みなかみ町民憲章」を制定、平成24年6月に「谷川岳エコツーリズム推進全体構想」の認定など、豊かな自然を守り・いかし・ひろめる取組を展開してまいりました。そして、平成23年に地域協議会が赤谷プロジェクトの協定に加わるタイミングで、当時の環境課が担当窓口となり、赤谷プロジェクトとの具体的な連携がスタートしました。その後、環境学習や自然と共生した地域づくりなどの取組を連携して行って来た中で、日本自然保護協会や赤谷センター等の協力のもと、平成29年6月14日にユネスコエコパークとして登録されました(図3)。

ユネスコエコパーク登録は、この地域に暮らしてきた方々の行いが評価されたことであると言えます。赤谷プロジェクトが20周年を迎え、新たなフェーズとしてより持続可能な地域づくりを目指し、多くの方が参加できて、興味を持てる地域自らの取組が期待されると感じております。自分がまず楽しみながら、持続可能なことについて少しずつ皆

が方向を合わせて進んでいくことが大きな一歩になってくると思います。そして、子供たちがずっと住み続けたくなる、みなかみ町に暮らすことが自慢に思えるような町を目指して、力を合わせていきたいと考えております。

▲図3-2:一ノ倉沢

◀図3-3:谷川連峰

▲図3-1:みなかみユネスコエコパークロゴマーク

赤谷プロジェクトから発展した 三菱地所・みなかみ町・日本自然保護協会の連携事業 ～1年間の成果～

(公財)日本自然保護協会
生物多様性保全部 部長 出島 誠一

三菱地所・みなかみ町・日本自然保護協会の連携事業についてご紹介いたします。我々はこの取組を「みなかみネイチャーポジティブプロジェクト」と呼んでおります。ネイチャーポジティブな社会を実現するために、協定を結び、三菱地所からの企業版ふるさと納税を活用して、みなかみ町から先進的な取組を実践していく仕組みです(図4)。こちらは昨年2月の時点で日本初だったと思います。

ネイチャーポジティブは「人と地域のために、生物多様性の損失に歯止めをかけ、自然を回復させること」と定義されています。単に自然や生物の話だけではなく、都市と地方の連携や持続的な農林業を行うといったものを生態系の保全と重ねていかなければネイチャーポジティブは実現しないとされています。生物多様性の復元を持続可能な地域づくりとセットで行うこの取組は、赤谷プロジェクトと合致するものだと思っており、このような背景があったために今回の協定に至りました。

人工林を自然林に戻すためには、伐採した材を地域の資源として活用しなければネイチャーポジティブにはなりません。里地里山の保全についても、里山地域の農産物を高付加価値で売っていくようなことを目指す必要があります。低密度下でのシカの捕獲についてもそれをジビエ利用し、地域経済に使っていくことが課題とされています。このような目標を達成していくために皆様には引き続きご協力いただければと思います。ぜひ、みなかみネイチャーポジティブプロジェクト／赤谷プロジェクトにご参加ください。

▶図4:ネイチャーポジティブPRJの中で行われた「かいぼり」イベントの様子

次の10年に向けたダイアログ

地域協議会
北山郁人／片野直子／本多 結

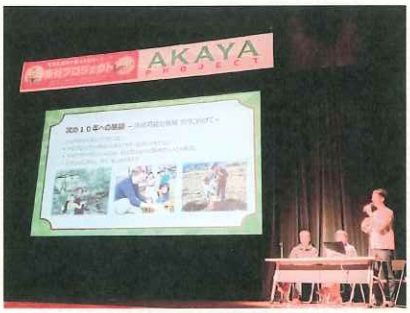
これらの報告の後、地域協議会の北山郁人様、片野直子様、本多結様から「次の10年に向けたダイアログ」というテーマでお話しいただきました。

北山様は民泊や環境教育など幅広く活動をされており、茅場や薪、原木キノコなどの森林資源を活用しながら生物多様性を保全していくことの重要性について話していただきました。

片野様は登山ガイドとしての活動をされており、谷川岳でのごみ拾いツアーの実施など、ガイドの立場としての赤谷プロジェクトとの関わりについてご紹介いただきました。

本多様は道の駅「たくみの里」という施設で活動をされていて、赤谷プロジェクトと地域の活動をつなぎながら、自然との暮らしを楽しめるような場をつくっていきたいという想いを語っていただきました。

報告会の最後にはご来場いただいた方々との間で質疑応答を交わしました。報告の詳しい内容は赤谷センターHPをご覧ください。



▲左から地域協議会 北山様、片野様、本多様

色々な活動をしているよ！

赤谷プロジェクトの活動 トピックス

R5.10.7

赤谷の日の活動（10月）

地域の方とわらアートを作成しました。今回は赤谷の森に生息するイヌワシに挑戦しました！

R5.10.12

群馬県立農林大学校校外学習

農林大学校の生徒さんに赤谷の森を案内し、赤谷プロジェクトの取組を紹介しました。

R5.10.21

赤谷の森自然散策（秋）

多くの紅葉に囲まれて秋色となった赤谷の森を散策し、自然の魅力をお伝えしました。

R5.10.24

新治小学校1年生の森林環境教育

赤谷の森を好きになってもらうきっかけの場として、いきもの村で秋遊び体験を行いました。

R5.12.2

赤谷の日の活動（12月）

地域づくりの一環として植栽した桐に、食害防止のネットを設置しました。

R5.12.4-5

自然環境モニタリング会議

今年1年のワーキンググループの活動を整理し、次年度の課題を検討しました。

赤谷プロジェクト20周年のロゴマークができました！

赤谷プロジェクトは2023年に丸20年を迎え、この度20周年を記念したロゴマークができました。デザインは主にイヌワシがデザインされたもの（図1）と赤谷の森の山々がイメージされたもの（図2）の2種類になります。今後は様々な場所で使っていこうと思いますので、皆様もぜひ探してみてください！

赤谷森林ふれあい推進センター　神田　駿

AKAYA PROJECT 20TH ANNIV.

（図1）

AKAYA PROJECT 20TH ANNIV.

（図2）

赤谷プロジェクト、って？

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha（10km四方）の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせください。

赤谷プロジェクトサポーター募集！

赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先

（公財）日本自然保護協会：萩原

※トピックスの詳細は

赤谷森林ふれあい推進センター　検索

follow me

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※『森のおもちゃの家』内

理事　本多　結

メールアドレス y-honda@takuminosato.or.jp

（公財）日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4101

プロジェクト担当　萩原　正朗

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長　上野　文紀

https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html

メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp